

〈原 著〉

## 学習成果から見たダンスの教材特性の検討

—生徒の学習評価の観点から—

中村 恭子\*・浦井 孝夫\*\*

A study of the characteristics of dance as educational material from the learning outcome:  
From the perspective of students' evaluation

Kyoko NAKAMURA\* and Takao URAI\*\*

### Abstract

The purpose of this study was to examine the characteristics of dance as educational material based on the evaluation of study by students. We requested evaluation from students about the learning outcome of Creative Dance and Dance of Modern Rhythm, and analyzed the replies. The evaluation included 40 items with 7 ratings for each. The targets were junior high school and high school students. We received 1,504 valid responses for Creative Dance and 2,004 for Dance of Modern Rhythm.

The results were as follows:

1. The evaluations of dance were classified into five factors: “dance”, “partnership”, “create”, “pleasure”, and “appreciate”.
2. Creative Dance got significantly high ratings in the learning outcome of “create”, “partnership”, “appreciate”, and “dance”.
3. Dance of Modern Rhythm got significantly high ratings in “desire for vicarious experience” and “good feeling” which are the sub-items of “pleasure”.

From the aforementioned results, we observed that the learning outcome of Creative Dance is comprised of “dance”, “create”, “appreciate”, and “partnership”, and these factors closely relate to each other which, in turn, tend to link with “pleasure”. On the other hand, although Dance of Modern Rhythm drew students' interest, the learning outcome of each category was not as high as that of Creative Dance.

Key words: 創作ダンス Creative Dance, 現代的なリズムのダンス Dance of Modern Rhythm, 学習評価 evaluation of study, 教材特性 characteristics of dance as educational material

## 1. はじめに

### 1.1 ダンス授業の現状と教材論

学習指導要領の改訂<sup>7)9)</sup>により、ダンス領域の種目として従来の創作ダンス、フォークダンスに加えて新たに現代的なリズムのダンスが導入されてから7年が経過した。改訂当時の文部省体育局

---

\* ダンス運動学研究室  
Seminar of Dance Movement

\*\* 体育科教育学研究室  
Seminar of Sport Pedagogy

体育官であった本村<sup>11)</sup>は、現代的なリズムのダンスを導入することにより創作ダンスやフォークダンスの活動もより豊かになるのではないかと述べていた。しかし、ダンス授業の実態調査<sup>14)16)</sup>によると、現代的なリズムのダンスの実施率が急速に増加する一方で創作ダンスの実施率は減少する傾向が見られた。また、フォークダンスは体育祭の集団演技として「ソーラン節」等の実施が見受けられる以外は極めて低い実施率であった。すなわち、創作ダンスと現代的なリズムのダンスはダンス領域の主要な2種目となっており、いずれか1種目のみを学校選択で実施している学校が多いという実態が明らかにされている。このようにダンスの学習教材が2分化している現在、それぞれの教材特性の相違点について明確にする必要がある。

学習指導要領解説<sup>8)10)</sup>によれば、創作ダンスと現代的なリズムのダンスの学習内容はどちらも「全身の動きで自由に踊る」ことや「まとまりのある動き・表現を工夫して作品を作る」こと、「踊りや作品を発表しあい、交流する」と示されている。すなわち、「踊る」「創る」「観る(見せ合う)」の3つの学習内容で構成されていると捉えられる。両種目の学習内容の違いは踊る学習や作る学習の過程においてテーマやイメージを手がかりにするか、音楽のリズムを手がかりにするかの違いだけのようにも見受けられる。

一方、山田<sup>20)</sup>は、ダンスの体験を覚える-踊る-創る-見せる(発表・鑑賞する)という4つに大別したうえで、創作ダンスは創る-見せる体験、リズムダンスは創る-踊る体験が中心であると述べている。創作ダンスとリズムダンスは創った踊りを見せるのか、一緒に踊るのかに相違点があるという。各種目を推進してきた指導者のダンス観を見ると、松本千代栄<sup>5)</sup>は、創作ダンスを「踊る」「創る」「見る(見せる)」の3つの活動からとらえ、3つの活動すべてを含む全体験としてのダンス学習が有効であると提案している。一方、村田<sup>12)</sup>は、リズムダンスは「見せる・見るよりは一緒に踊る」方が種目の特性が生きる参加型のダンスであるとし、相手との即興的で自由な関わり合

いの活動を中心に学習を進めることを提案している。

これに対して授業の実態<sup>15)</sup>を見ると、創作ダンスはいずれの学校でも「創る」学習を基盤として「踊る」「見せ合う」までの総合的内容であり、松本<sup>5)</sup>の提案との一致がみられたが、現代的なリズムのダンスは学校によって学習内容や学習方法が異なっていた。約半数の学校では教員の一斉指導による既成の踊り方の習得学習を行っており、「覚える」や「踊る」ことを中心とした学習内容が多く見られ、「創る」活動や村田<sup>12)</sup>の提案する「即興」学習の実践例は少なかった。このような両種目の学習内容・学習方法の相違点により、生徒の学習成果に違いが生じることが予測される。その学習成果を評価し、学習教材としての特性と授業の改善点を探るために、ダンスの学習内容を捉えた評価方法が求められている。

## 1.2 ダンス学習成果の評価方法

ダンスは評価が難しいと言われて久しく、学習内容に照らした客観的な評価基準の作成が求められてきた。体育の授業評価については小林<sup>4)</sup>や鐘ヶ江<sup>3)</sup>によって開発され検討が重ねられてきているが、ダンスを対象としての研究は数少ない。ダンス学習評価・授業評価に関するこれまでの研究では、体育授業評価の方法に倣った長谷川<sup>1)</sup>や伊藤<sup>2)</sup>の研究があるが、これらの調査項目はダンスの具体的な学習内容を十分に反映したものはなかった。

一方、松本富子<sup>6)</sup>は、中学生の評価から授業構造を明らかにするため松本千代栄の授業観にもとづいた調査項目を作成し、「おどる・つくる」「わかる」「かかわる」「とりくむ」の4つの因子を抽出した。松本富子らの調査項目はダンスの学習内容に沿って作成されており、抽出された因子は高橋<sup>19)</sup>の提唱する体育学習の技能領域、認識領域、社会的行動領域、情意領域に対応している。また、ダンス学習を「技能や認知に関わる側面」と「学び方に関わる側面」から捉えた新しい学力観に即した形成的評価法の観点として有益といえる。佐藤<sup>17)</sup>は松本富子らの評価項目を活用した授業評価を実践し、その有効性を実証している。

しかし、いずれの評価方法も対象教材は創作ダンスに限定されたものであり、現代的なリズムのダンスの学習内容には適合していない。創作ダンスと現代的なリズムのダンスがダンスの2大教材となってきた現在、両種目の特性をとらえた包括的な評価基準が必要である。

### 1.3 目的

本研究では、ダンスの学習成果について創作ダンス、現代的なリズムのダンスに共通する評価項目からダンスの学習構造をとらえ、生徒の学習評価を分析・検討して創作ダンスと現代的なリズムの教材特性を明らかにすることを目的とした。

「踊る」「創る」「観る」活動による総合的学習の創作ダンスと「覚える」「踊る」「交流する」活動を中心とした現代的なリズムのダンスの学習成果には違いがあることが予測される。本研究の成果により、ダンスの学習目標・教育目標に照らしたふさわしい教材採択のための指標を導き出し、ダンス授業改善の一助としたい。

## 2. 方法

### 2.1 評価項目の作成

評価項目作成のための予備調査<sup>13)</sup>として、高校生301名を対象に創作ダンスおよび現代的なリズムのダンスの学習成果に関する自由記述の感想を求め、回答をKJ法により分類した。その結果、ダンス学習成果は両種目に共通する学習場面・学習内容から「踊る(運動技術・踊る欲求)」「創る(創作技術・協力交流)」「観る(発表・評価・鑑賞)」に分類された。これをもとに学習指導要領が示す学習内容・学習目標をふまえ、松本ら<sup>6)</sup>の研究成果をも参考にして、学習評価40項目を作成し、生徒にその達成度を7件法で回答させた。

調査用紙の40項目については表1に示した。これらは、創作ダンスと現代的なリズムのダンスの学習成果を比較検討するために、両種目に共通する項目として設定した。ただし、創作ダンスがテーマ・イメージを手がかりに動きの工夫をするのに対し、現代的なリズムのダンスは音楽のリズムを手がかりに動きの工夫を行うという違いがあるため、動きの工夫の手がかり(題材)に関わる

2項目(項目12, 13)はそれぞれ「テーマやイメージ」「音楽のリズム」と表記内容を入れ替えた。

各校にこの調査用紙を郵送し、ダンス単元終了後に担当教員の指導のもと無記名で調査を実施した。調査期間は平成18年2月24日から3月31日であった。

### 2.2 調査対象

調査対象校は東京都および千葉県下の中学校・高等学校から無作為抽出した80校あまりに調査の依頼を行い、そのうち、協力の承諾が得られた学校とした。その結果、創作ダンスについて20校から1504(以下、創作ダンス群)、現代的なリズムのダンスについて27校から2004(以下、現代リズム群)の有効回答を得た。回答数の内訳を表2に示した。

なお、ひとつの学校で創作ダンスと現代的なリズムのダンスの2種目を実施しており、両種目について回答が得られた学校が、中学校で2校、高等学校で4校あった。また、回答者数のうち( )で示したのは男子生徒の内訳である。本研究においては男女を区別せずに集計した。

調査対象校の授業内容は、創作ダンス群では、a)単元の前半に一時間完結の即興創作を行い、後半に作品創作と発表会を行っていた学校(即興+創作)が15校、b)単元のはじめからグループ創作を行い作品発表会を行っていた学校(創作)が5校であった。現代リズム群では、c)教師の一斉指導による既成作品の踊り方の習得学習(既成)が10校、d)既成作品の習得の後、部分的に生徒が振り付けをした学校(既成+振付)が7校、e)単元前半は既成作品を学習し、後半は生徒が新たに作品作りをして発表会を行っていた学校(既成+創作)が5校、f)単元のはじめからグループで自由に選曲して作品を作り発表会を行っていた学校(創作)が5校であった。c)およびd)では、グループ間の見せ合いによる発表会はなく、クラス全体で一斉に踊って学習のまとめとしていた。このように、創作ダンス群はいずれの学校も作品創作と発表会を中心とした授業内容であったが、現代リズム群の授業内容は学校により学習方法や内容が多様であった(表3)。

表1 ダンス学習成果の評価項目と調査用紙の表記

項目	創作ダンス	現代的なリズムのダンス
1 踊る楽しさ	踊ることが楽しいと感じられた	踊ることが楽しいと感じられた
2 動きの大きさ	からだを精一杯大きく使って踊れるようになった	からだを精一杯大きく使って踊れるようになった
3 リズム感	リズムカカルに踊れるようになった	リズムカカルに踊れるようになった
4 身体操作性の向上	からだを思い通りに動かせるようになった(器用になった)	からだを思い通りに動かせるようになった(器用になった)
5 なりきり	気持ちを込めて踊れるようになった	気持ちを込めて踊れるようになった
6 体力の向上	よく動いたので体力がついた	よく動いたので体力がついた
7 良い動きの理解	どのように動けば良い表現・踊りかが分かるようになった	どのように動けば良い表現・踊りかが分かるようになった
8 自信	自分の踊りに自信が持てるようになった	自分の踊りに自信が持てるようになった
9 羞恥心の解放	恥ずかしがらずに堂々と踊れるようになった	恥ずかしがらずに堂々と踊れるようになった
10 感じあい	友達と感じあいながら踊れるようになった	友達と感じあいながら踊れるようになった
11 創る楽しさ	ダンスを創ることが楽しい、面白いと感じられた	ダンスを創ることが楽しい、面白いと感じられた
12 題材の発見	表したいイメージやテーマを見つけられた	表したい音楽のリズムやイメージを見つけられた
13 動きの工夫	イメージやテーマに合った動き方を工夫できるようになった	音楽のリズムに合った動き方を工夫できるようになった
14 リズムの工夫	リズムやアクセントの取り方を工夫できるようになった	リズムやアクセントの取り方を工夫できるようになった
15 対応の工夫	友達との対応のしかたを工夫できるようになった	友達との対応のしかたを工夫できるようになった
16 空間の工夫	空間の使い方や群の構成のしかたを工夫できるようになった	空間の使い方や群の構成のしかたを工夫できるようになった
17 個性的表現の工夫	個性的・独創的な踊りが工夫できるようになった	個性的・独創的な踊りが工夫できるようになった
18 音楽の選択	作品にふさわしい音楽が選べるようになった	作品にふさわしい音楽が選べるようになった
19 計画的活動	作品作りの見通しを立て、計画的に活動できた	作品作りの見通しを立て、計画的に活動できた
20 積極的発言	グループ活動の中で積極的に自分の意見が言えるようになった	グループ活動の中で積極的に自分の意見が言えるようになった
21 仲間の意見の尊重	グループ活動の中で友達の意見を大切にすることができるようになった	グループ活動の中で友達の意見を大切にすることができるようになった
22 協力的活動	グループ活動の中で仲間と協力して活動できるようになった	グループ活動の中で仲間と協力して活動できるようになった
23 グループ活動の楽しさ	グループ活動が楽しいと感じられた	グループ活動が楽しいと感じられた
24 鑑賞の楽しさ	友達の踊り、作品を見ることは面白いと感じられた	友達の踊り、作品を見ることは面白いと感じられた
25 作品表現内容の理解	友達の踊り、作品の表したいことが分かるようになった	友達の踊り、作品の表したいことが分かるようになった
26 作品表現方法の評価	友達の踊り、作品の良いところが発見できるようになった	友達の踊り、作品の良いところが発見できるようになった
27 鑑賞成果の活用	友達の踊り、作品を見ることは自分のためになった	友達の踊り、作品を見ることは自分のためになった
28 自表現の伝達・承認	自分(自分たち)の表現やアイデアをみんなに分かってもらえた	自分(自分たち)の表現やアイデアをみんなに分かってもらえた
29 表現する楽しさ	自分(自分たち)の踊りを人に見てもらうことが楽しいと感じられた	自分(自分たち)の踊りを人に見てもらうことが楽しいと感じられた
30 創出・完成の喜び	自分(自分たち)で一から創り上げることの楽しさを感じられた	自分(自分たち)で一から創り上げることの楽しさを感じられた
31 意欲的態度	授業に積極的、意欲的に取り組むことができた	授業に積極的、意欲的に取り組むことができた
32 達成感	一生懸命に取り組むことの喜び、達成感を感じることができた	一生懸命に取り組むことの喜び、達成感を感じることができた
33 公平性	誰とでも仲良く学習することができた	誰とでも仲良く学習することができた
34 他者理解	友達との交流を深め、相手のことをよく理解できるようになった	友達との交流を深め、相手のことをよく理解できるようになった
35 仲間との一体感	みんなと一緒にダンスを創ったり踊ったりして仲間との一体感を得られた	みんなと一緒にダンスを創ったり踊ったりして仲間との一体感を得られた
36 課題の遂行	自分なりの目標や考えを持って学習できた	自分なりの目標や考えを持って学習できた
37 自己理解	自分の個性や良いところが分かった	自分の個性や良いところが分かった
38 有能感	創作ダンスは自分にもできる運動だと思えた	現代的なリズムのダンスは自分にもできる運動だと思えた
39 好感	創作ダンスが好きになった	現代的なリズムのダンスが好きになった
40 追体験欲求	また、創作ダンスをやってみようと思った	また、現代的なリズムのダンスをやってみようと思った

表2 調査対象

	学年	創作ダンス			現代的なリズムのダンス			計		
		学校数	回答数	有効回答数	学校数	回答数	有効回答数	学校数	回答数	有効回答数
中学校	1	9	356(44)	263(28)	15	580( 87)	464( 67)	24<2>	936(131)	727( 95)
	2		284	234		473( 6)	386( 5)		757( 6)	620( 5)
	3		198	164		238( 7)	200( 5)		436( 7)	364( 5)
	計		838(44)	661(28)		1291(100)	1050( 77)		2129(144)	1711(105)
高等学校	1	11	698	595	12	390( 8)	323( 7)	23<4>	1088( 8)	918( 7)
	2		259(50)	220(37)		332	272		591( 50)	492( 37)
	3		31	28		449(209)	359(150)		480(209)	387(150)
	計		998(50)	843(37)		1171(217)	954(157)		2169(267)	1797(194)
計		20	1836(94)	1504(65)	27	2462(317)	2004(234)	47<6>	4298(411)	3508(299)

※回答数の( )は男子生徒数の内訳

※学校数の<>は創作ダンスと現代的なリズムのダンスの両方を実施していた学校の内訳

表3 創作ダンスと現代的なリズムのダンスの授業内容

主体	内容	創作ダンス		現代的なリズムのダンス			
		即興+創作型 n=15	創作型 n=5	既成型 n=10	既成+振付型 n=7	既成+創作型 n=5	創作型 n=5
教員 主導	既成作品の習得			○	○	○	
	既成作品の応用				○		
生徒 主体	即興創作	○					
	作品創作	○	○			○	○
	発表	○	○			○	○

## 2.3 分析

統計処理においては、7件法のデータを等間隔の尺度とみなし、量的変数として扱った。因子分析は主成分法プロマックス回転、平均の差の分析はt検定を行った。統計ソフトはSPSSver.14.0を用いた。

## 3. 結果および考察

### 3.1 学習成果項目の分類 (因子分析)

生徒の学習評価の結果をもとに因子分析(主成分分析・プロマックス回転)を行った。その結果、固有値1以上、累積寄与率は73.9%で3因子が抽出された。第1因子は創作技能に関する項目

と運動技能に関する項目で、「運動技能(踊る・創る)」の因子と解釈できた。第2因子は仲間との関わりに関する項目と観る(理解)に関わる項目で、「交流(観る・関わる)」の因子と解釈できた。第3因子は興味関心や楽しさに関する項目で、「楽しさ」の因子と解釈できた。しかし、本研究ではダンス各種目の学習成果の相違点を「踊る」「創る」「観る」のどの学習局面に重点をおいているかという視点で分析することが目的であるので、この3因子ではダンスの学習内容を十分に説明できない。一般に因子分析では固有値1以上の因子が有効とされているが、一方では累積寄与率80%ですべての因子が説明できるとも言われて

いる。そこで、さらに因子数を増やして分析を試みた。

5因子で分析すると累積寄与率は77.7%となり、ほぼ満足できる結果を得られた。このうち、因子負荷量が0.80以上の下位項目について解釈を行なった。第1因子は3.リズム感, 2.動きの大きさ, 5.なりきり, 4.身体操作性の向上, 7.良い動きの理解, など運動技能に関する10項目であった。この因子を「踊る」学習成果の因子と命名した。第2因子は22.協力的活動, 33.公平性, 23.グループ活動の楽しさ, 34.他者理解, 35.仲間との一体感, など集団学習における人間関係や社会的行動に関する8項目であった。この因子を「関わる」学習成果の因子と命名した。第3因子は16.空間の工夫, 17.個性的表現の工夫, 14.リズムの工夫, 19.計画的活動, 13.動きの工夫, など創作活動や創作技能に関する8項目であった。この因子を「創る」学習成果の因子と命名した。第4因子は39.好感, 40.追体験欲求, 38.有能感, 30.創出・完成の喜び, 29.表現する楽しさ, など学習成果としての楽しさや興味関心に関する6項目であった。この因子を「楽しさ」因子と命名した。第5因子は26.作品表現方法の評価, 25.作品表現内容の理解, 27.鑑賞成果の活用, 24.鑑賞の楽しさ, の鑑賞と理解に関する4項目であった。この因子を「観る」学習成果の因子と命名した(表4)。

これらの5因子は、松本千代栄<sup>5)</sup>が定義したダンスの学習内容「踊る」「創る」「観る」を含み、松本富子<sup>6)</sup>の分析による「おどる・つくる」「かかわる」「とりくむ」「わかる」と一致し、高橋<sup>19)</sup>の提唱する体育学習目標としての技能領域(踊る, 創る), 社会的行動領域(関わる), 情意領域(楽しさ), 認識領域(観る)にも対応していることから、ダンス学習評価の観点として有効と考えられる。したがって本研究ではこの5因子での分析結果を採択することとした。

なお、創作ダンス群, 現代リズム群についても別々に因子分析を行ったところ、ほぼ同様の結果が得られた。

### 3.2 因子構造から見た種目比較

分類された因子構造をもとに、創作ダンス群と

現代リズム群の平均得点を比較した(表5, 図1)。その結果、多くの項目で創作ダンス群の得点が有意に高いことが明らかになった。特に「創る」「関わる」「観る」因子では全ての下位項目で創作ダンス群の得点が有意( $p < 0.001$ )に高かった。また、創作ダンス群は「踊る」因子の下位項目12.題材の発見, 5.なりきり, 2.動きの大きさ, 10.感じあい, 11.創る楽しさ( $p < 0.001$ ), 7.良い動きの理解, 9.羞恥心の解放( $p < 0.01$ )で有意に得点が高かった。「楽しさ」因子では29.表現する楽しさ( $p < 0.001$ ), 30.創出・完成の喜び, 38.有能感( $p < 0.01$ )で有意に得点が高かった。

一方、「楽しさ」の40.追体験欲求は現代リズム群の得点が有意( $p < 0.05$ )に高く、また、有意差は認められないものの、39.好感も現代リズム群の得点が高いという結果であった。また、「踊る」の3.リズム感, 4.身体操作性の向上, 8.自信, 「楽しさ」の1.踊る楽しさの得点に有意差はなかった。

次に、各因子の下位項目を単純合計した平均得点をみると、「創る」「観る」「関わる」「踊る」の各因子で創作ダンス群が有意( $p < 0.001$ )に得点が高かった。特に「創る」は $t$ 値13.53と非常に大きな差があった。これは、創作ダンスに比較して現代的なリズムのダンスは「創る」学習が少ないことを反映していると考えられる。また、「楽しさ」因子も創作ダンス群がやや有意( $p < 0.05$ )に得点が高かった。現代的なリズムのダンスは現場の教員から「踊る楽しさを体験させやすい」と考えられている<sup>13)</sup>とおり、下位項目では40.追体験欲求や39.好感において高い得点を得ているが、29.表現する楽しさや作品の30.創出・完成の喜び, 自分にも出来るという38.有能感を含めた総合的な学習成果としての「楽しさ」は創作ダンスのほうが得やすいことが明らかになった。

また、創作ダンス群も現代リズム群も、「観る」の得点がもっとも高く、次いで「関わる」「楽しさ」「踊る」「創る」の順であった。すなわち、ダンスの技能目標である「踊る」「創る」よりも認識目標「観る」、社会的行動目標「関わる」、情意目標「楽しさ」において学習成果が得られたと生

表4 ダンス学習成果の因子構造 (プロマックス回転)

n = 3508

因子	No.	項目	因子 負 荷 量					共通性
			F1	F2	F3	F4	F5	
踊る	3	リズム感	0.88	0.64	0.65	0.70	0.61	0.78
	2	動きの大きさ	0.88	0.67	0.64	0.72	0.64	0.79
	5	なりきり	0.88	0.66	0.70	0.71	0.65	0.78
	4	身体操作性の向上	0.87	0.62	0.67	0.64	0.56	0.75
	7	良い動きの理解	0.85	0.62	0.75	0.64	0.60	0.76
	9	羞恥心の解放	0.83	0.65	0.69	0.69	0.56	0.72
	8	自信	0.83	0.56	0.73	0.65	0.49	0.74
	12	題材の発見	0.81	0.66	0.80	0.69	0.70	0.76
	10	感じあい	0.81	0.75	0.72	0.70	0.65	0.73
	11	創る楽しさ	0.80	0.73	0.69	0.79	0.70	0.75
	関わる	22	協力的活動	0.69	0.91	0.68	0.66	0.72
33		公平性	0.63	0.90	0.64	0.72	0.64	0.81
23		グループ活動の楽しさ	0.64	0.89	0.60	0.67	0.72	0.80
34		他者理解	0.65	0.89	0.70	0.74	0.70	0.81
35		仲間との一体感	0.68	0.87	0.70	0.80	0.73	0.82
21		仲間の意見の尊重	0.69	0.87	0.72	0.62	0.71	0.80
32		達成感	0.70	0.84	0.69	0.82	0.72	0.80
31		意欲的態度	0.70	0.81	0.70	0.79	0.67	0.76
創る	16	空間の工夫	0.76	0.66	0.88	0.64	0.66	0.80
	17	個性的表現の工夫	0.75	0.63	0.86	0.66	0.63	0.77
	14	リズムの工夫	0.82	0.64	0.84	0.65	0.66	0.80
	19	計画的活動	0.67	0.66	0.84	0.61	0.55	0.72
	13	動きの工夫	0.82	0.65	0.83	0.68	0.71	0.80
	18	音楽の選択	0.67	0.64	0.83	0.62	0.60	0.70
	15	対応の工夫	0.76	0.74	0.82	0.63	0.69	0.77
	28	自表現の伝達・承認	0.68	0.71	0.82	0.75	0.70	0.75
	楽しさ	39	好感	0.72	0.69	0.65	0.92	0.65
40		追体験欲求	0.68	0.66	0.61	0.91	0.63	0.83
38		有能感	0.72	0.70	0.71	0.87	0.65	0.78
30		創出・完成の喜び	0.71	0.73	0.77	0.84	0.68	0.77
29		表現する楽しさ	0.72	0.66	0.78	0.81	0.65	0.76
1		踊る楽しさ	0.79	0.70	0.54	0.80	0.70	0.79
観る	26	作品表現方法の評価	0.64	0.75	0.68	0.69	0.92	0.87
	25	作品表現内容の理解	0.65	0.72	0.72	0.66	0.90	0.84
	27	鑑賞成果の活用	0.63	0.72	0.67	0.72	0.90	0.83
	24	鑑賞の楽しさ	0.58	0.77	0.52	0.62	0.87	0.82
平方和			66.86	4.48	2.59	2.01	1.77	
累積寄与率			66.86	71.33	73.92	75.93	77.70	

表5 各因子の平均得点の比較

		創作ダンス n=1504		現代的なリズムのダンス n=2004		t 値	
		MEAN	S.D.	MEAN	S.D.		
踊る	3	リズム感	4.84	1.54	4.76	1.53	1.46
	2	動きの大きさ	4.93	1.52	4.73	1.47	3.89***
	5	なりきり	4.79	1.59	4.54	1.56	4.57***
	4	身体操作性の向上	4.60	1.56	4.55	1.56	0.95
	7	良い動きの理解	4.62	1.56	4.45	1.55	3.11**
	9	羞恥心の解放	4.63	1.71	4.47	1.70	2.83**
	8	自信	4.10	1.64	4.02	1.65	1.36
	12	題材の発見	4.84	1.59	4.56	1.57	5.19***
	10	感じあい	4.93	1.60	4.72	1.59	3.78***
	11	創る楽しさ	5.05	1.73	4.85	1.71	3.34***
		計	4.73	1.62	4.56	1.61	9.52***
関わる	22	協力的活動	5.39	1.51	5.22	1.54	3.16***
	33	公平性	5.28	1.57	5.13	1.60	2.64***
	23	グループ活動の楽しさ	5.44	1.58	5.27	1.62	3.03***
	34	他者理解	5.20	1.53	5.00	1.54	3.88***
	35	仲間との一体感	5.23	1.59	5.05	1.61	3.37***
	21	仲間の意見の尊重	5.24	1.44	5.04	1.47	3.91***
	32	達成感	5.24	1.59	5.13	1.58	2.08***
	31	意欲的態度	5.10	1.60	5.04	1.61	1.25***
	計	5.27	1.56	5.11	1.57	8.17***	
創る	16	空間の工夫	4.64	1.50	4.38	1.49	5.03***
	17	個性的表現の工夫	4.62	1.54	4.33	1.55	5.37***
	14	リズムの工夫	4.63	1.52	4.40	1.51	4.55***
	19	計画的活動	4.56	1.55	4.36	1.55	3.78***
	13	動きの工夫	4.83	1.52	4.53	1.54	5.67***
	18	音楽の選択	4.68	1.60	4.50	1.56	3.28***
	15	対応の工夫	4.88	1.49	4.64	1.50	4.71***
	28	自表現の伝達・承認	4.79	1.51	4.47	1.52	6.02***
	計	4.70	1.53	4.45	1.53	13.53***	
楽しさ	39	好感	4.90	1.82	5.00	1.69	-1.71
	40	追体験欲求	4.83	1.95	4.96	1.82	-2.01†
	38	有能感	5.03	1.69	4.86	1.65	2.88**
	30	創出・完成の喜び	4.91	1.65	4.72	1.65	3.19**
	29	表現する楽しさ	4.62	1.68	4.42	1.66	3.46***
	1	踊る楽しさ	5.33	1.59	5.33	1.59	0.08
	計	4.94	1.75	4.88	1.70	2.18*	
観る	26	作品表現方法の評価	5.30	1.49	5.09	1.50	4.16***
	25	作品表現内容の理解	5.20	1.45	4.86	1.46	6.78***
	27	鑑賞成果の活用	5.28	1.55	4.99	1.56	5.32***
	24	鑑賞の楽しさ	5.70	1.47	5.54	1.51	3.16**
	計	5.37	1.50	5.12	1.53	9.59***	
総	計	4.89	1.32	4.72	1.30	3.83***	

\* p<0.05, \*\* p<0.01, \*\*\* p<0.001, † p<0.05



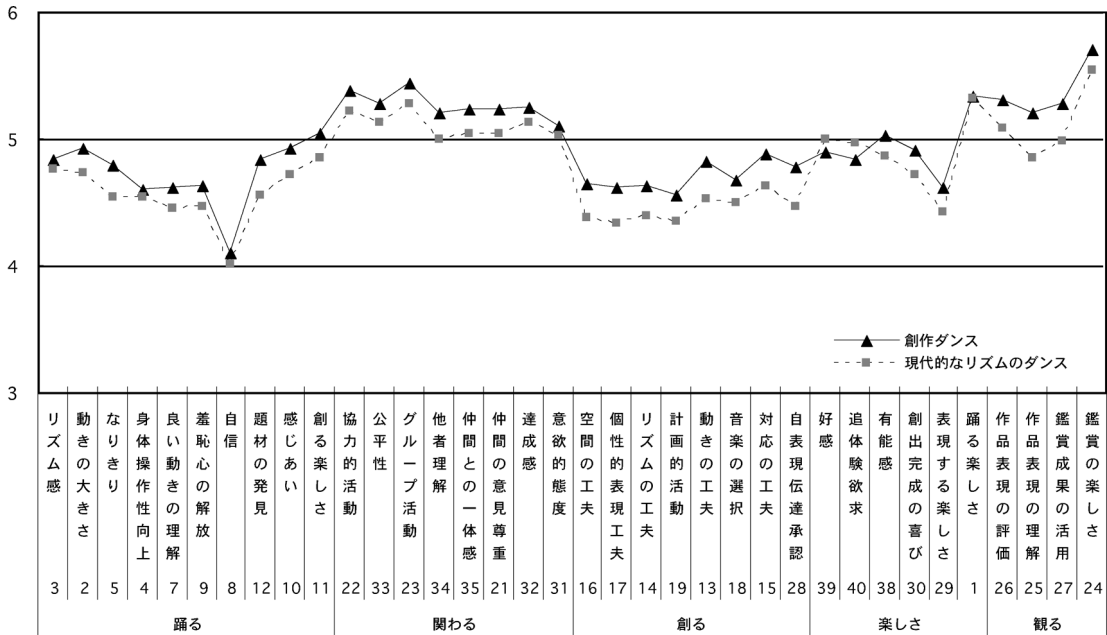


図1 各因子の得点傾向

徒が感じているということが分かった。このことから、ダンス種目は運動を核としながら、それを通じて社会的行動目標の達成や運動に対する興味関心・意欲的態度を得やすい教材特性を備えていると考えられる。

### 3.3 因子間の相関関係

ダンス学習成果5因子の因子間の関係をみたところ、因子間相関係数はいずれの因子間も0.6以上で中程度以上の相関関係にあった。特に「創る」と「踊る」(r=.741), 「踊る」と「楽しさ」(r=.726)の相関係数が高く、また、「観る」と「関わる」(r=.737), 「関わる」と「楽しさ」(r=.735)の相関係数が高いという結果を得た。これから、学習成果の関係のモデル化を試みた。線の太いほど相関関係が高いように示した。この図から、ダンス学習は「創る」「踊る」学習成果が「楽しさ」に結びつきやすく、また、「観る」「関わる」学習が「楽しさ」に結びつきやすい教材特性を持つ傾向がうかがえる(図2-1)。

これを、創作ダンス群、現代リズム群でみる

と、創作ダンス群では、全体に因子間の相関がより強くなっていた。現代リズム群では因子間の相関がやや弱く、特に「観る」と「踊る」「創る」には相関係数0.6未満の弱い相関しかない。これは、現代リズム群の学習内容において「観る」学習、すなわち作品発表・鑑賞の場が少ないことと関係すると考察された(図2-2, 3)。

## 4. 結論

本研究では、創作ダンスと現代的なリズムのダンスに共通する学習構造として「踊る」「関わる」「創る」「楽しさ」「観る」の5因子を抽出し、各種目の学習成果から教材特性を検討した。その結果、創作ダンスは「創る」: 動きを作る能力, 「観る」: 動きの善し悪しを見分ける能力, 「関わる」: 仲間との人間関係を築く能力, 「踊る」: 踊る能力を高めるのに適した教材であり、それらの学習成果が相互に関連しあい「楽しさ」、特に表現する楽しさや創出・完成の喜び、有能感を与えやすい教材特性であることが明らかになった。これに比

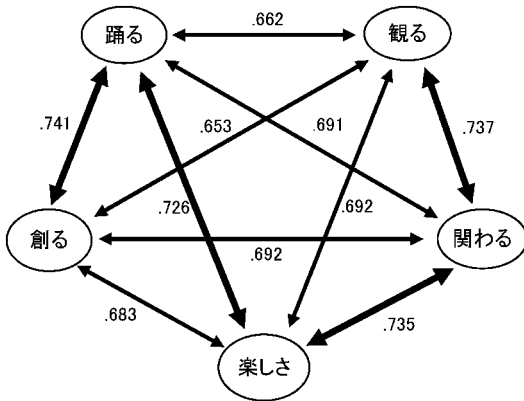


図 2-1 ダンス学習成果の因子間相関

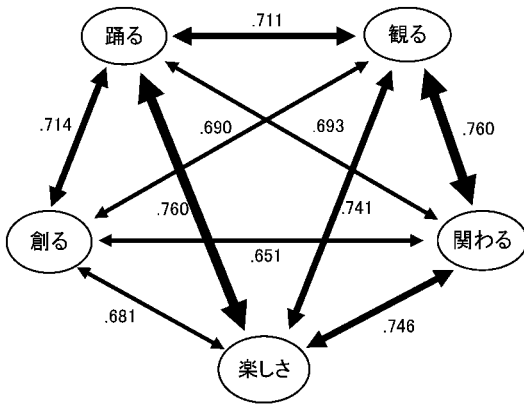


図 2-2 創作ダンス学習成果の因子間相関

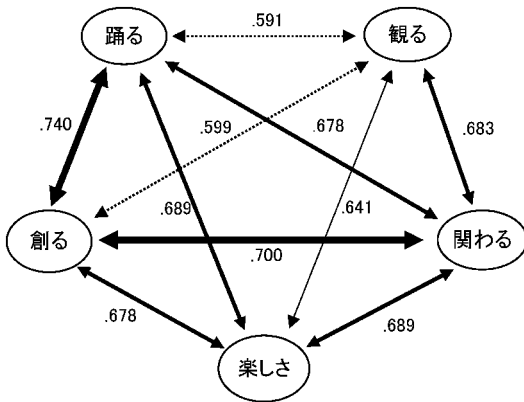


図 2-3 現代的なリズムのダンス学習成果の因子間相関

較して、現代的なリズムのダンスは「創る」「観る」「関わる」「踊る」能力の育成は創作ダンスほどは期待できず、踊ることの「楽しさ」を体験させることに特化して有効な教材特性であることが明らかになった。

さらに、総じて、ダンスは運動技能（踊る・創る）や運動理解・認識（観る）の学習過程で社会的行動目標（関わる）と関連し、情意目標（楽しさ）の成果を得やすい教材であるとの知見を得た。

これらの結果は、教育現場の授業の現状における各種目の学習内容の違いを反映しているものと考えられる。現場の指導に当たっては、ダンス各種目の教材特性とそこから得られる学習成果について理解し、学習目標・教育目標に照らした教材採択を検討する必要性が示唆された。

## 文 献

- 1) 長谷川由美子 (1990) ダンス授業診断のための態度尺度作成の試み. 兵庫教育大学大学院学校教育研究科修士論文.
- 2) 伊藤美智子, 林 信恵 (2000) 生徒によるダンス授業評価の試み. 大阪体育大学紀要 31, 1-7.
- 3) 鐘ヶ江淳一, 江原武一, 高橋健夫 (1986) 体育の授業に対する生徒の態度構造に関する研究. 奈良教育大学研究紀要 35, 9-21.
- 4) 小林 篤 (1978) 体育の授業分析. 大修館書店, 東京, 169-258.
- 5) 松本千代栄 (1981) 舞踊課題と創作モデル: 高等学校における実験授業研究. 日本女子体育連盟紀要 '81, 1-40.
- 6) 松本富子, 高橋健夫, 長谷川悦示 (1996) 子供から見たダンス授業評価の構造—中学校創作ダンス授業に対する評価の分析から—. スポーツ教育学 16, 47-54.
- 7) 文部科学省 (1999) 高等学校学習指導要領. 大蔵省印刷局, 東京, 96-103.
- 8) 文部科学省 (1999) 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編. 東山書房, 57-63.
- 9) 文部省 (1998) 中学校学習指導要領. 大蔵省印刷局, 東京, 71-79.
- 10) 文部省 (1999) 中学校学習指導要領解説 保健体

- 育編. 東山書房, 62-70.
- 11) 本村清人, 斉藤孝司, 戸田芳雄, 大島研一 (1999) 現代的なリズムのダンス. 対談・中学校新教育課程: 保健体育科の授業をどう創るか, 明治図書, 東京, 61-64.
  - 12) 村田芳子 (2002) リズムダンスの授業の考え方と進め方. 最新 楽しいリズムダンス・現代的なリズムのダンス, (村田芳子編), 東京, 小学館, 5-14.
  - 13) 中村恭子, 浦井孝夫 (2006) ダンスの学習内容と楽しさの検討—創作ダンスと現代的なリズムのダンスの比較—. 順天堂大学スポーツ健康科学研究, 10, 65-70.
  - 14) 中村恭子, 浦井孝夫 (2005) 中学校における体育の種目選択性に関する研究—ダンス領域を中心とした現状と問題点—. 順天堂大学スポーツ健康科学研究 9, 52-56.
  - 15) 中村恭子, 武井正子, 浦井孝夫 (2003) 「現代的なリズムのダンス」の実施状況と教員の意識に関する研究—学習目標と学習内容の検討—. 日本体育学会第54回大会号, 616.
  - 16) 中村恭子, 武井正子, 浦井孝夫 (2002) 高等学校におけるダンス授業のカリキュラムに関する研究—実態調査にもとづいて—. 順天堂大学スポーツ健康科学研究 6, 94-105.
  - 17) 佐藤みどり, 古木竜太, 松本富子 (2002) 学生による授業評価から見たダンス授業の検討—授業評価の試み—. 国際武道大学紀要 18, 47-53.
  - 18) 高田俊也, 岡沢祥訓, 高橋健夫, 鐘ヶ江淳一 (1991) 体育授業における新しい授業診断法の作成. 体育授業改善のための基礎的研究 (高橋健夫研究代表者; 文部省科学研究費研究報告書所収), 172-182.
  - 19) 高橋健夫 (1989) 新しい体育の授業研究. 大修館書店, 東京.
  - 20) 山田敦子 (1992) ダンスの教材論. ダンスの教育学 (松本千代栄監修・編), 第1巻, 東京, 大修館書店, 70-73.

(平成18年10月10日 受付)  
(平成18年12月12日 受理)